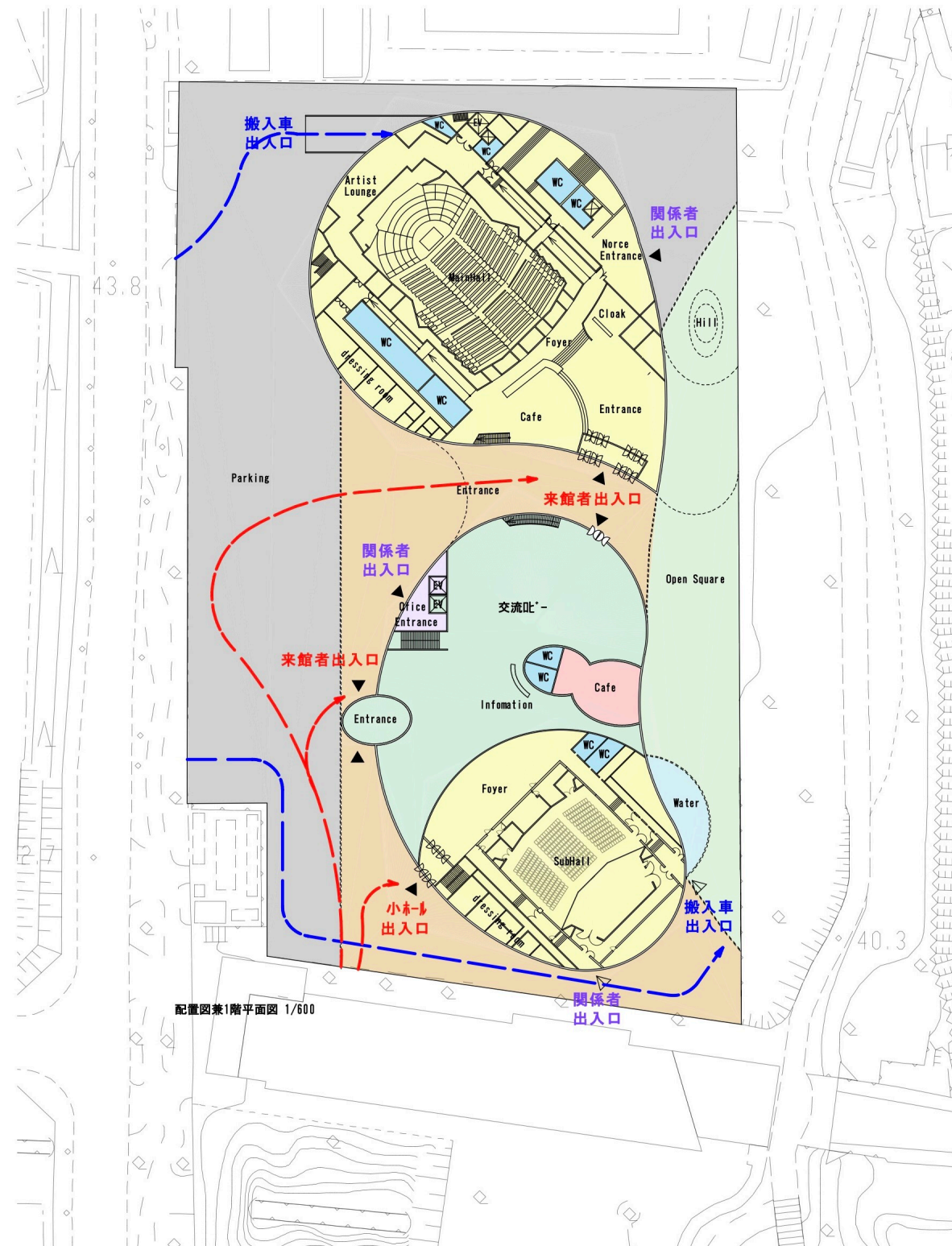


# RE;I(0)

(仮称)国際センター-駅北地区複合施設

仙台の始まりの地として古来よりここにある自然、歴史、景観が、この地の価値として過去から未来へと引き継がれ、市民のよりどころのひとつとなりうる施設を提案します。

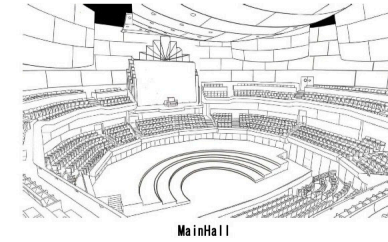


配置図兼1階平面図 1/600

面積表	
音楽ホール棟	7,745㎡
震災メモリアル棟	20,920㎡
合計	28,665㎡

## 1 青葉山音楽文化の象徴

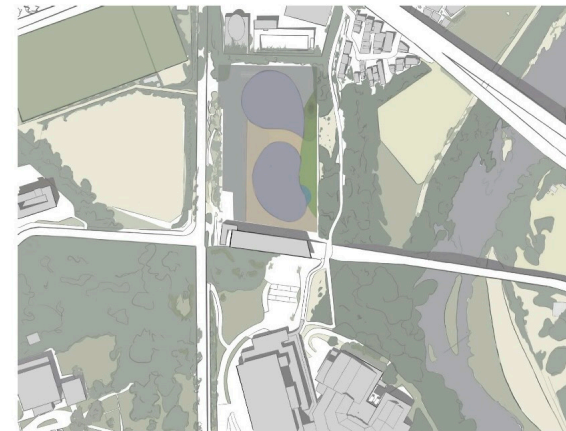
かつてより「楽都仙台」と呼ばれるほど音楽文化が盛んな場所であり、東日本大震災以降、人々の心のよりどころとなってきた仙台を中心とする音楽を発信する象徴としてのホールを提案します。  
東日本大震災で母を失った少女が瓦礫のなかでトランペットを胸に抱きかかえ途方に暮れ、その後天国の母へ音楽を届ける姿。  
その被災者個々の思いが届けられるようなホール設計とし、音が空へと届くようなホール内に「天窓」を提案します。



MainHall

## 3 明確な動線計画

一般来館者動線と関係者動線・搬入動線を入口から明確に分離させました。大ホールの搬入動線は主に地下から、小ホールは南側からの動線を確保しました。音楽ホールと震災メモリアルホールへの動線も二つに分離させそれぞれ目的の場所へ直接入館できる計画としました。  
子供たちが遊べる場所や人々の憩いの場所としての広場エリアを東側に隣接する青葉山公園に一体として広く利用できるようにし施設側には小高い丘や水盤、交流広場と一体利用可能な芝張りのオープンスペースを設け大きなイベントにも対応できるような計画としました。

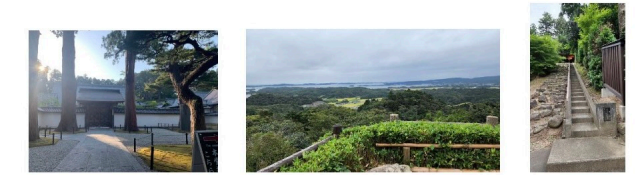


## 2 RE;Iから始まる

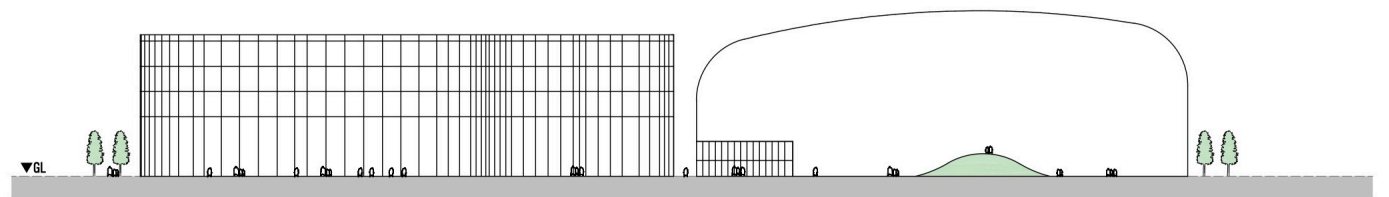
RE;I(0)は「零」とも「Re I」とも読めます。  
0は全ての始まりで常に均衡を保ちます。  
陽はそれだけでは存在せず陰が必ず必要です。正解があるわけではなくどちらも正解。そのような思いもこめて陰陽太極図をモチーフとした平面形状をしています。  
影の中に光を見出せるような、その光に向かって歩いて行けるようなそして誰でもない本来の自分を取り戻す。  
そんな思いを込めて設計しました。

## 4 青葉山エリアの景観配慮

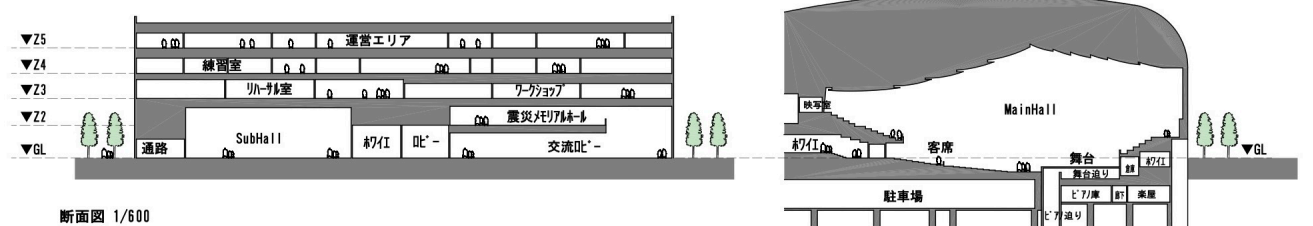
都の都仙台的「社」という文字には「社」=神社や屋敷にある木立という意味がある。人々が江戸時代から長い年月を掛けて育んで来た社である。  
自然の中に違和感なく溶け込むように人工的である角を極力造らない形状にしています。  
その景観に寄り添えるような色彩の調和を検討します。



仲の瀬橋からの景観



東側立面図 1/600



断面図 1/600

整理番号